

国立病院機構熊本医療センター

No.245



くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501 (代)
FAX (096) 325-2519
連携室直通 TEL (096) 353-6693
連携室直通 FAX (096) 323-7601



第1回「看看連携の集い」が行われました

第1回看看連携の集い（with 訪問看護ステーション）を平成29年9月27日13時30分～15時に研修センターホールにて開催致しました。熊本県内の訪問看護ステーションの訪問看護師さん15名と院内の看護師（在宅療養支援リンクナース、退院支援担当看護師、看護師長）41名、合計56名の参加となりました。

看護部では、顔の見える看看連携を通して、スムーズな連携ができる体制を構築することを目標とし昨年度から取り組みを進め、今年度の開催となりました。

「急性期病院から在宅へ」連携に必要なことをテーマに、訪問看護師さんと当院看護師で、普段困っていることなど自由に意見交換を行いました。

訪問看護師さんからは、「在宅での生活について情報提供をしても病棟で情報共有されていない」「在宅に移行した後の患者の状態を伝えたいが、どこに伝えたらいいかわからない」などの意見がありました。当院の看護師からは、「家に帰りたという患者と転院を希望する家族と方向性が違う事があり在宅に移行するか迷う事がある」「入院後、ケアマネジャーと連絡を取ることが多いが、医療、看護については訪問看護師さんと直接連絡を取り合うことも必要」といった意見があり、連携の重要性を改めて感じました。ま

た、お互いの質問に答えるQ&Aがあり、意見交換会は大変盛り上がりしました。

開催後、「顔を合わせて話すことができ、有意義な時間だった。今後も継続してほしい」「初めてグリーンナース（退院支援担当看護師）の存在を知った。今後は直接連絡を取っていきたい」「在宅での看護の様子を知ることができてよかった」といった声が聞かれ有意義な会になりました。

今後は、頂いた意見をしっかりと受け止め、よりよい連携につながるよう取り組んで参りたいと思います。（看護師長 城 芳恵）



田中地域医療連携係長から看護部の取り組みを発表

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



田崎橋耳鼻咽喉科
クリニック
院長 宮村 健一郎



私が熊本市西区の田崎に田崎橋耳鼻咽喉科クリニックを開設したのは、平成4年の2月でした。それから早いもので25年が経ちました。その間、平成8年に、東区に熊本東耳鼻咽喉科クリニックを開設し、平成13年には福岡市城南区に、城南耳鼻咽喉科クリニックを開設しました。まさに、必死に駆け抜けてきた25年だったような気がします。更に、熊本市医

師会の仕事にも関係させていただき、現在、副会長を務めさせていただいております。

開業以来、一貫して熊本医療センターには多大にお世話になっております。

以前は、国立熊本病院と呼んでいましたので、今でも国立病院とつい言ってしまいます。患者さんもその方が分かりやすいようです。以前は、国立の耳鼻咽喉科には4～5名の医師がいました。よって、私達開業医にとっては、手術や急患の患者さんを送りやすい病院でした。ところが、ここ数年は、上村先生お一人でされています。本当に大変であろうと思います。しかし、国立を希望される患者さんが多いのが現実です。申し訳ないと思いつつもお願いしてしまいます。しかし、上村先生は、快く受けていただけます。只々、頭が下がる思いです。今後、耳鼻咽喉科医が増えることを願っております。

熊本医療センターは、熊本では規模的にも、内容的にも屈指の医療機関であります。医師会としましても、大変お世話になっております。今後とも、ますます発展されることをお祈り致しますと共に、熊本の医療に貢献されることを願っております。

河野文夫名誉院長が 第13回 JICA国際医療協力感謝賞を受賞しました

この度、第13回国際医療協力感謝賞（保健医療分野）を、平成29年10月3日、JICA市ヶ谷ビル国際会議場に於いて、独立行政法人国際協力機構（JICA）北岡伸一理事長より授与されました。また翌日は、JICA本部に於いて、同時に受賞しました青木克己長崎大学名誉教授とともに、特別講演（これまでの国際医療協力とJICAへの期待）の荣誉に浴しました。

国際協力機構（JICA）は、毎年、国際協力事業を通じて途上国の人材育成や社会発展に多大な貢献をした事業・個人・団体に対し、その功績を讃えるために「JICA理事長賞」及び「JICA国際医療協力感謝賞」として表彰を行っています。今回受賞しました「JICA国際医療協力感謝賞」は、国内外においてJICAが行う国際協力の業務に長年にわたって協力した個人と団体に贈られます。

今回の受賞は、個人の受賞ではありますが、もとより、当院の国際医療協力は、多くの歴代の職員の皆様のご協力の賜物であり、私は、たまたま当院を代表して授与されたに過ぎません。これまで当院の国際医療協力を推進された多くの職員の皆様に心から御礼と感謝を申し上げたいと存じます。当院は、今後も国際医療協力を当院の重要な柱と位置づけ、益々発展されることを祈念しております。

（熊本医療センター名誉院長 河野文夫）



北岡伸一理事長と記念撮影「提供 国際医療協力（JICA）」

【授賞理由】

同氏は、1989年から28年間にわたり、国際医療協力に貢献した。“血液由来感染症”研修コースをはじめとして多数の課題別研修のコースリーダーや研修アドバイザーを務めた。同氏の指導により、ブラジル研修員による、ブラジルでの献血時HTLV-1抗体スクリーニング導入という成果を得た。また、1992年度集団研修“血液由来感染症”に参加したエジプトからの研修員医師からの依頼に応じ、エジプトで企画したアフリカ諸国向け第3国研修“感染症・免疫・分析”の立ち上げに尽力した。これまでに11回エジプトを訪問し、同研修の講師を続けている。2012年4月に熊本医療センターの院長に就任してからも国際医療協力を積極的に推進し、毎年3～5件の課題別研修などを実施している。

福岡大学救命救急医医学講座教授 石倉宏恭教授の特別講演が行われました

平成29年9月20日第156回救急症例検討会において、福岡大学救命救急医医学講座教授・同救命救急センター長の石倉宏恭先生の特別講演が行われました。

福岡大学病院救命救急センターは、世界的大都市の1つである福岡市にある救命救急センターとして多くの重症患者様の受入を行っている三次救急医療施設であり、九州の救急集中治療医学の先端を走っている病院の1つです。石倉宏恭先生といえば、「敗血症・凝固線溶異常」がご専門というのが私たちの常識なのですが、多くの救急隊員が参加する救急症例検討会ということでなんと「災害医療」の話をしていただきました。石倉先生は過去に関西医科大学にいらっしゃったこともあり、あの阪神淡路大震災における災害医療を経験されておられます。近年の日本の災害医療の原点は阪神淡路大震災にあるといっても過言ではないほどの歴史的災害の1つであり、その貴重なご経験から、私たちが学ばないといけない教訓やその他災害医療における大切なことを数多くご講演いただきました。また、災害医療においては多くの外傷患者が発生いたしますが、外傷患者における出血管理のなかでも



講演される石倉宏恭教授

特に輸血の話や人工血小板の開発の話もしていただきました。

非常に基礎的な話から、先進的な話まで多くの役に立つお話をしていただき、病院スタッフだけでなく、参加していただきました多くの救急隊員もとても勉強になりましたし、石倉先生の知識の深さと広さに大変感銘を受けました。石倉先生、本当にありがとうございました。（救命救急センター長 原田正公）

熊本大学大学院生命科学研究部小児科学分野教授 中村公俊教授の特別講演が行われました

平成29年10月4日（水）当院研修センターホールにて第93回特別講演が開催されました。演者の先生は本年9月熊本大学小児科の第13代教授にご就任された中村公俊先生です。

中村先生は平成2年に熊本大学をご卒業され、同年熊本大学小児科にご入局されました。同大学院ご卒業後はカナダにご留学され、帰国後熊本大学小児科講師、准教授の後、この度小児科教授となりました。熊本大学生え抜きの教授です。先生は熊本高校グリークラブのOBで、奥様も小児科医です。

ご講演では「小児難病の早期診断と治療」についてお話がありました。まず、小児の難病とくにご専門であるウィルソン病や尿素サイクル異常症などの先天性代謝異常症のお話がありました。次にライソゾーム病などが加わった新しい新生児マススクリーニングの話や遺伝子解析パネル等による早期診断と新しい治療法、およびその問題点などを分かり易くお話して頂きま



講演される中村公俊教授

した。小児難病を早く見つけて重篤にならないうちに早く治療したいという熱い気持ちを語られました。

私ども熊本医療センター小児科医は、熊本大学小児科中村新教授をお支えしこれからも熊本の小児医療に貢献していきたいと考えます。

（小児科医長 森永信吾）

第32回 シンポジウム ―医療の将来― 「地域包括ケア」の現状と将来展望 地域包括ケアにおける医療ネットワークの活用

平成29年9月29日（金）、第32回シンポジウム医療の将来「地域包括ケア」の現状と将来が、熊本県医師会理事の林邦雄先生を座長として開催されました。2025年問題について、地域医療の包括ケア病院の立場から菊南病院院長室原良治先生、在宅医療の立場からひまわり在宅クリニック院長後藤慶次先生より在宅医療への取り組みの実際を講演して頂きました。行政からは八代地域振興局より立川優局長に県としての取り組みについて解説して頂きました。私から当院の直面している急性期病院の課題を説明しました。



シンポジウム会場の様子



室原良治先生（左）後藤慶次先生（右）の講演の様子

今回のシンポジウムを通して私達がこれからの高齢化社会で望むべき医療体制を選択し築き上げなければならないと感じました。「それぞれの人生において自立した在宅生活をいかに長く保つか」を中心とした思考が求められています。私達も急性期で患者を受け入れるときから、生活の場へ返すことを強く認識し在宅医療を実践している施設と連携して取り組んで参ります。

（副院長 清川哲志）

平成29年度 国立病院機構QC活動奨励表彰で 「特別優秀賞」を授賞しました

放射線科のQC活動について平成29年度国立病院機構QC活動奨励表彰に応募いたしました。その結果特別優秀賞を受賞し、H29年10月12日（木）国立病院機構本部理事長室にて表彰される栄誉を授かりました。表彰式では楠岡理事長による表彰状授与及び副賞授与があり、その後理事長との記念写真撮影そして九州グループ表彰者との集合記念撮影がありました。そして表彰者全員と機構本部役員等との懇談会が約1時間行われました。



楠岡理事長との記念写真



表彰状授与式の様子と
特別優秀賞表彰状



懇談会を通じて役員の方々のQC活動への関心の高さや期待を改めて伺えました。

受賞のQC活動は「もう迷わないで… -検査呼び入れ時における不在患者減少に向けて-」です。今回のQC活動により、患者呼び入れ時における不在患者数が減少したことで検査効率が向上したとともに、患者の検査待ち時間短縮に繋がりました。今後もQC活動を行い業務改善に取り組んでいきたいと思ひます。

（放射線技師長 古川則行）

国際医療協力「JICA 課題別研修」

重症感染症などのアウトブレイク対応強化のための実地疫学 (管理者向け)

9月5日から10月5日までJICA課題別研修「重症感染症などのアウトブレイク対応強化のための実地疫学（管理者向け）」が開催されました。研修生は現在もエボラ出血熱やラッサ熱等のアウトブレイクに奔走するDRC、エチオピア、ガーナ、リベリア、ナイジェリア、シエラレオネ、ウガンダ、ザンビアのアフリカ諸国とフィリピンの9か国からの合計14名が参加しました。

研修はJICA、国立感染症研究所、結核研究所、厚生労働省、防衛医科大学、各県衛生研究所のご協力の下、講義、視察、プレゼンから構成され、非常に充実した研修内容となりました。最終講義では当院名誉院長で天然痘撲滅にご尽力された蟻田功先生より労いの



参加者とヘリポートで記念撮影

お言葉を頂き、熱い思いを胸に研修生は奮い立ち、そして希望を見出せた素晴らしい研修会となりました。この度、多大なるご協力をいただいた各専門機関スタッフ、当院国際協力室スタッフ、私の背中を押してくださった高橋院長、高木先生、河野先生、そして蟻田先生にこの場をお借りして心から深謝申し上げます。誠に有難うございました。来年以降も引き続き皆様のご協力を賜りつつ、当院の国際貢献に寄与すべく邁進する所存ですので何卒よろしくお願い申し上げます。

(コースリーダー：感染症・呼吸器内科 小野 宏)



当院での研修の様子

「九州麻酔科学会で診療看護師の周術期医療への関与」 について発表しました

9月9日に大分オアシスタワーホテルで行われた九州麻酔科学会第55回大会で、診療看護師の活動について、ポスター発表を行う貴重な機会を頂きました。当院では麻酔担当医が目の前の麻酔管理症例から一時的に離れ、翌日の担当症例の術前診察・説明を行っています。高齢化や合併症に伴う重症例が増加し、麻酔科医の術前診察の業務負担が増加してきているのが現状です。

私は平成26年度から診療看護師（JNP）として当院に勤務開始し、2年間各科で研修した後、平成28年からは麻酔科に配属となり、麻酔科医と共に麻酔管理に携わっております。現在、術中だけでなく、麻酔科外来や予定や緊急手術時の術前診察に携わっています。従来の手術室環境にない診療看護師の視点を活かし、これまで麻酔科に関わりきれなかった部分の周術期医療のサポートができるようになる事を目標に、周術期管理チームの一員としても、活動範囲を拡大できればと思っております。主に手術室にありますが、外来、病棟にも顔を出しておりますので、皆様どうぞ宜しくお願い致します。



ポスター発表の様子

(診療看護師 岩崎伊代)

新任職員紹介



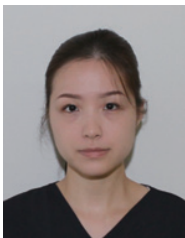
産婦人科
ちが まさひこ
値賀 正彦

平成29年10月より産婦人科で勤務させていただきます。本年3月まで熊本大学に所属しており、半年間の山鹿市民医療センターでの勤務を経て異動となりました。2年間の初期研修以来、約9年ぶりの本院勤務になります。救急疾患・手術症例を中心とした多くの症例を経験させて頂きたいと思っております。他科の先生方に御相談させて頂く機会も多いかと存じますが、何卒宜しくお願いいたします。



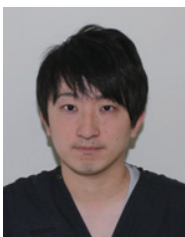
腎臓内科
なかむら ともふみ
中村 朋文

平成29年10月より腎臓内科にて勤務させていただくことになりました、中村朋文と申します。熊本大学医学部附属病院腎臓内科へ入局し、今回熊本医療センターで勤務させていただくことになりました。まだ経験が浅く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、患者さんに最善の治療を提供できるよう努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。



放射線科
ゆきむら ひろこ
幸村 紘子

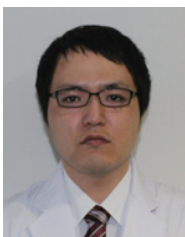
平成29年10月より放射線科で勤務いたします、幸村紘子と申します。これまで久留米大学病院、済生会日田病院、済生会大牟田病院、熊本大学附属病院などの勤務を経て、このたび異動となりました。安全で質の高い放射線医療を提供できるよう精一杯努力したいと思っております。よろしくお願いいたします。



神経内科
おかだ まさみつ
岡田 匡充

この度、熊本医療センター神経内科で勤務させていただくこととなりました岡田匡充と申します。前任は熊本再春荘病院に勤務しておりました。神経内科は脳

梗塞、てんかん、髄膜脳炎などの神経救急疾患から、多発性硬化症、重症筋無力症、ギランバレー症候群といった神経免疫疾患、さらにはパーキンソン病や認知症を代表とする神経変性疾患など幅広い疾患領域を担当させていただいております。地域の皆様に医療という形で貢献できるよう、日々努力して参りたいと考えておりますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



小児科
くすのき しょういちろう
楠木 翔一郎

本年10月より勤務させていただいています小児科の楠木翔一郎と申します。小児科医として勤務し、まだ

2年半と未熟な自分ではありますが、いち早くこのスタッフの一員として認めていただけるようにがんばっていきたく思います。こどもを相手にした仕事が好きでこの職業を選択しました。一人でも多くの患儿とその家族の役に立てたらと思い、日々勉強していく所存です。不慣れな点、未熟な点、多々あると思いますが、今後のご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。

病院増改修整備工事の進捗状況

11月からの工事は、先月から始まった杭打ち工事を継続して行い、杭打ち工事終了後は大型タワークレーンの設置を行います。また、患者用駐車場に確保している工事用スペースをさらに拡張し、そこに資材等を置いてタワークレーンで工事現場まで運搬しながら工事を進めていく予定です。工事のために駐車場スペースが更に不足することとなり、大変ご不便おかけいたしますが、引き続き、ご理解とご協力の程宜しくお願い申し上げます。
(業務班長 安藤隆幸)



杭打ち工事の様子

<今後のスケジュール予定>

- ・研修棟、売店食堂棟解体：Step 2 平成29年4月～平成29年8月
- ・増築棟新築工事：Step 3 平成29年9月～平成30年11月
- ・外来棟改修工事：Step 4 平成30年12月～平成31年8月

(※スケジュールは、今後の工事進捗状況によって変更する場合があります。)

地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

当院は、地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいのご指摘を受け、直通電話を設置致しております。

この直通電話は、関係医療機関の皆様から頂くお電話のみをお受け致します。患者様からの直接のご相談は、これまでどおり代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室直通電話

096-353-6693

月～金(祝日を除く) AM 8:30～PM 17:00

地域医療連携室長 渡邊健次郎



共同指導をご活用下さい

先生方には日頃より患者様のご紹介を頂きありがとうございます。

共同指導は、かかりつけ医からのご紹介の患者様をご入院された場合、ご紹介を頂いた先生に当院にお越し頂き、当院の担当医師と共同で診療を行うものです。患者様はかかりつけ医と当院の担当医師とで情報交換を行うことにより、入院中および退院後の治療をよりスムーズに受けることができます。

ご紹介頂いた患者様をご入院されましたら、共同指導のご案内をFAXさせていただきますので、ご活用下さい。

※共同指導を行う為には登録医になって頂く必要があります。申込用紙に必要事項をご記入頂く

だけで結構ですので、地域医療連携室(096-353-6693)にお気軽にお問い合わせ下さい。

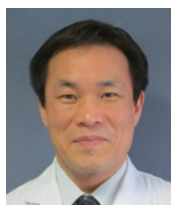
当院へご紹介頂いた患者様の最善の治療を行うために共同指導の制度を是非ご活用下さい。

地域医療連携室長 渡邊健次郎



最近のトピックス

当院小児科で行っている 小児白血病の診療



小児科医長
森永 信吾

熊本医療センター小児科は、肺炎・気管支炎や喘息などの呼吸器疾患、嘔吐・下痢や胃腸炎などの消化器疾患、熱性痙攣やてんかんなどの神経疾患など頻度の多い小児疾患診療を幅広く行っています。さらに、小児の血液疾患、アレルギー疾患（とくに食物アレルギー）、免疫不全症について専門的な診療を行っています。

今回は、昭和63年から平成29年の約30年間当科で行ってきた小児白血病の診療についてまとめました。患者は0歳から15歳までの小児で急性リンパ性白血病98名、急性骨髄性白血病46名、骨髄異形成症候群5名、慢性骨髄性白血病3名、その他3名、男子88名、女子67名、計155名でした。造血細胞移植では51名の患者に59回の移植を行い、1人2回以上移植を行った患者が8名（最高3回移植が1名）でした。自家骨髄・末梢血幹細胞移植14件、同種血縁者間骨髄・末梢血幹細胞移植26件、同種非血縁者間骨髄移植18件、同種非血縁者間臍帯血移植1件でした。

昭和63年当初は東京小児がん研究グループ(TCCSG)に参加して同グループのプロトコール（研究計画書）を実施していました。平成15年からは全国の小児血液専門医が集結した日本小児白血病リンパ腫研究グループ(JPLSG)に参加して同プロトコールを実施しています。再発患者や染色体異常などの予後不良因子を持った患者の治療は困難だったため、平成7年からは血縁者間同種骨髄・末梢血幹細胞移植、自家骨髄・末梢血幹細胞移植を開始しました。核家族化と少子化により同種移植に必要なHLA適合兄弟ドナーの獲得が難しくなり、平成17年からは骨髄バンクからの非血縁者間同種骨髄移植、臍帯血バンクからの臍帯血移植も行うようになりました。

昭和63年から平成25年までの25年間熊本医療センター

小児科で治療した小児急性白血病134例の治療成績は、10年生存率が急性リンパ性白血病73%、急性骨髄性白血病48%でした（図1）。また、平成7年から平成25年までの18年間当科で行った45例の小児急性白血病の造血細胞移植成績は、寛解期移植生存率70%、非寛解期移植生存率4.3%でした（図2）。

図1 小児急性白血病治療成績 熊本医療センター小児科 (1988～2013年, 134例)

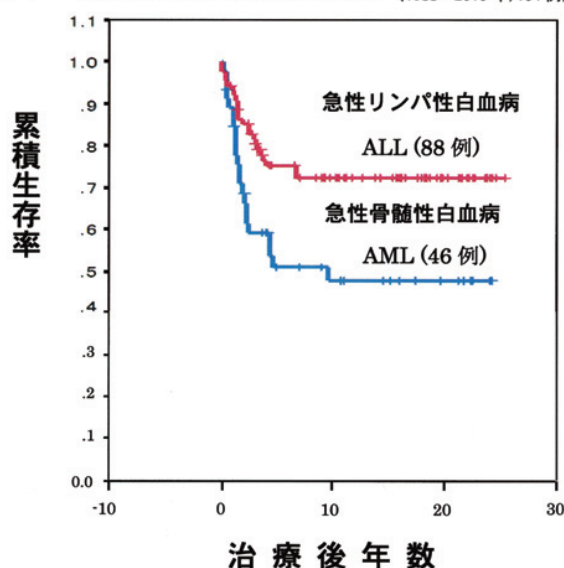
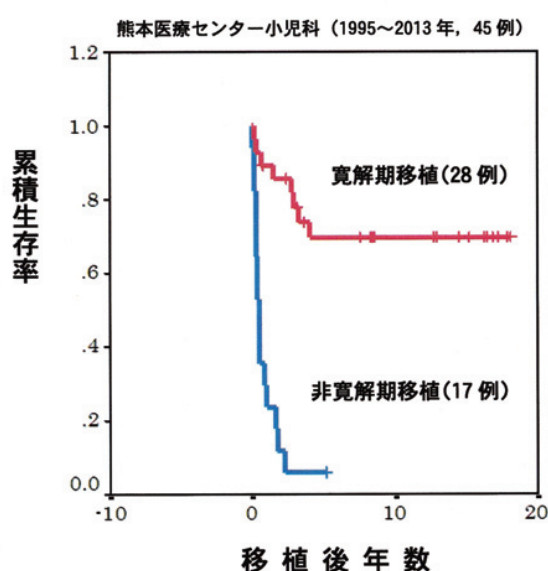


図2 小児急性白血病造血細胞移植成績 熊本医療センター小児科 (1995～2013年, 45例)



最近是全国的に小児血液がんを専門に志す若手小児科医師が不足し、同疾患を診る小児科医が減少しています。当院でも小児白血病やがんで苦しんでいる子どもや家族のため、やる気のある若手小児血液医師を求めています。

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ118回

急性GVHD治療薬テムセル®HS注の実務環境下における安定性
—調製から投与完了まで—

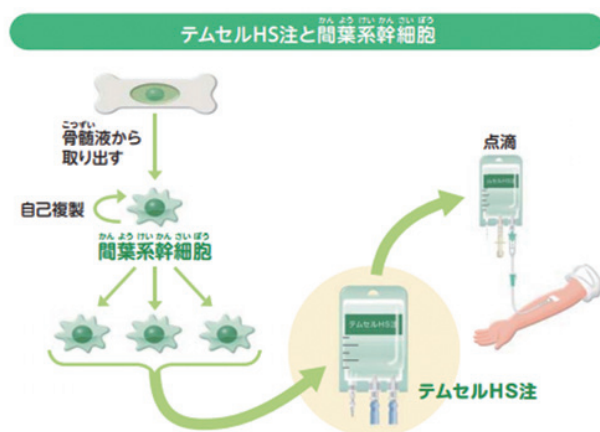
薬剤師 中山洋輔

近年幹細胞学、組織工学等の技術が飛躍的に進歩し一般化されたため、再生医療等製品が供給、使用できるようになってきました。再生医療等製品は、身体の構造・機能の再建・修復・形成や、疾病の治療・予防を目的として使用するもの、あるいは遺伝子治療を目的として人の細胞に導入して使用するものであり、医薬品や医療機器とは別に定義されています。現在供給されている製品には、ヒト（自己）骨格筋由来細胞シート「ハートシート®」やヒト（自己）軟骨由来組織「ジャック®」、ヒト（同種）骨髄由来間葉系幹細胞「テムセル®HS注」等があります。人の細胞から作った製品が流通・使用可能となると、従来の化学物質を主とした医薬品を取り扱う考え方では不十分であり、その管理（在庫管理、品質の管理）や使用方法について病院でも要求されることとなります。再生医療等製品も医薬品と同様に、その使用方法は添付文書に記載されていますが、実際の施設環境が様々であることから、添付文書記載の表現には自ずと限界が生じます。このため、実際に使用する上では情報不足となる点が窺えます。

熊本医療センターでは2016年2月より、造血幹細胞移植後の合併症の一つである急性GVHD治療薬テムセル®HS注を導入いたしました。テムセル®HS注は健常者骨髄液から得られた間葉系幹細胞を拡大培養した細胞性薬剤であることから、液体窒素気層中に装置され、極低温下で凍結した状態で流通され、投与の際は輸注バックから細胞懸濁液として投与します。このような特性を持つことから、正しく取り扱わないと有効な細胞が患者に投与されずに、効果を損なってしまうことが懸念されます。従って、その取り扱いに関し添付文書では使用上の注意の項目に、「使用時には水浴（37℃）中で急速に解凍し、生理食塩液で希釈する。

希釈後は室温で保管し、3時間以内に投与を開始すること」、また「投与中は、細胞が沈殿して輸注バッグ中の細胞濃度が不均一になるおそれがあるため、時々輸注バッグを手で緩やかに揉むなどして混ぜること」という記載があります。一方で、解凍から調製完了までの時間に関する記載や、調製後から投与完了までの許容時間に関する記載はなく、自施設の実務環境下で十分な生細胞率を確保できるのかということ、同様に点滴中の攪拌操作の頻度に関する記載はないため、どの程度の間隔で攪拌操作を行うと、均一でかつ損失なく投与できるのかということが課題となりました。

これらの課題に対し当院で研究を行った結果、血算板を用いた生細胞率の測定では、全例において臨床試験時の規定である70%以上であり、自施設の実務環境下で十分な生細胞率を確保することができました。また、攪拌操作を5分間隔で行うことで、投与完了バック内の細胞濃度を理論値とほぼ同等にでき、必要な細胞を無駄なく投与出来ることを明らかにしました。当院ではこのような実務上曖昧となる点についても確認、実証し、有効性が損なわれることのないよう研究を行っています。



出典：テムセルHS注を使用される患者さまへ JCRファーマ（株）

研修医レポート

臨床研修医

たじり たくや
田尻 拓哉



初めまして。研修医1年目の田尻拓哉と申します。生まれも育ちも熊本で熊本大学を卒業し、研修が始まってから6ヶ月目に入りましたが、まだまだ知らないことばかりで周りの方々に支えていただきながら、充実した研修生活を送らせていただいております。

私は消化器内科、腫瘍・血液内科、循環器内科と内科での研修が続き、現在は救命救急部で研修をしています。科ごとに雰囲気も覚えることも全然違うので、毎日とてもいい刺激を受けながら過ごすことができています。

初めの消化器内科では、オーダー一つもできない状態から始まりましたが、先生方、先輩方のご指導、サポートのおかげで何とか一通りのことは覚えることが

出来ました。研修初日がオンコールだったのですが、夜中に呼ばれて緊急内視鏡をした時のことは今でも覚えていて、自分が医師の道を歩みだしたのだと実感いたしました。

腫瘍内科では、急性期というよりは慢性期、緩和の患者様とかかわることが多く、患者様の今の悩みは何か、病気だけではなく、その他の様々な不安を理解し、取り除いてあげることの重要性を改めて感じる事が出来ました。

循環器内科では、また雰囲気がガラッと変わり、急性期の治療を行うことの方が多く、緊急の際は緊張感のある雰囲気を感しながら、毎日勉強させていただきました。

現在は、救急部での研修が始まったばかりですが、覚えた腹部エコーや心エコー、心電図の知識は現在の救急研修でも役立っていると感じる事が出来ております。忙しい中でも多くのことを吸収する姿勢を忘れずに、毎日頑張ります。これからも様々な科でご迷惑をお掛けするとは思いますが、1つ1つ丁寧にすることを心掛けて頑張りますので、ご指導御鞭撻のほどよろしく願いいたします。

臨床研修医

なかむら けいし
中村 敬志



研修医1年目の中村敬志と申します。熊本大学を卒業し、研修医の生活も早いもので6か月が経過しようとしています。

研修医となった当初、毎日初めてのこと、分からないことばかりで、緊張の連続でした。特に、患者さんに侵襲的なことをするときとはとても怖く、今となっては大したことではない手技も全然できませんでした。また、各科の研修以外にも救急外来の夜勤というものが、救急車が来るたびに、どうしよう、どうしよう、と不安でいっぱいになっていました。

しかし、指導医の先生方やコメディカルのスタッフの方、二年目の先輩方がとても優しく、手取り足取り

指導してくださるのおかげで、今日まで頑張ることができています。そしてなにより多くの同期がいて、お互い刺激あったり、励ましあったりすることも大きな支えだと感じます。

病院のシステムに慣れてきたころから、手技や診断など自分で出来ることも増えはじめました。患者さんの状態や病態を考える余裕が出てくると、日々の診療がほんの少しずつですが楽しくなり、患者さんに感謝されることも増えてきて、医師としての達成感や喜びを感じる時がたまに訪れるようになりました。それと同時に新しい課題や反省点なども山のように出てきており、学びには事欠きません。

思い返せばあっという間の6か月で、毎日の中身が非常に濃く、大変だと感じる時もありますが充実した研修ができています。これからも初心を忘れず、日々成長できるよう多くのことを学んでいきたいと思っています。未熟者がゆえ皆様にご迷惑をおかけしますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

研修のご案内

第190回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）
 [日本医師会生涯教育講座1.0単位認定]
 [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成29年11月16日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「糖尿病に合併した難治性感染症への血糖管理の意義」
 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 足立優樹
2. 「知っておきたい1型糖尿病の治療ーカーボカウントからSAP療法までー」
 医療法人社団 杜の木会 もりの木クリニック 理事長 矢野まゆみ 先生

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 西川 武志 TEL 096-353-6501(代表)内線5441

第6回 診断と治療ー最新の基礎公開講座ー

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成29年11月18日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：八代更生病院 理事長

宮本憲司朗 先生

演題：「肝疾患診療の新時代～肝炎・肝硬変・肝がん治療～」

1. 症例呈示
 国立病院機構熊本医療センター精神科部長 山下建昭
2. 認知症の基礎知識
 国立病院機構菊池病院 院長 木村武実 先生
3. 災害と認知症
 総合リハビリテーションセンター城南病院認知症診療顧問 高松淳一 先生

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

第225回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）
 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成29年11月20日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 内科症例検討 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。
 「第1症例 胸痛と腎障害を契機に診断された多発性骨髄腫の一例」
 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 原田奈穂子
 「第2症例 若年男性の心肺停止の一例」
 国立病院機構熊本医療センター循環器内科 山田敏寛
2. ミニレクチャー「見落としやすい腹痛について(仮)」
 国立病院機構熊本医療センター消化器内科 富口 純

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター教育研修部長 富田 正郎 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第157回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成29年11月29日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：「航空医療 熊本県ヘリ救急運行調整委員会症例検討部会」

国立病院機構熊本医療センター救命救急・集中治療部

原田正公

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通)

2017年

研修日程表

11月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

11月	研修センターホール	研 修 室
1日 (水)		
2日 (木)	8:15~ 8:45 二の丸モーニングセミナー 「泌尿器科救急疾患」 国立病院機構熊本医療センター泌尿器科医師 銘苺 晋吾	
3日 (金)	14:00~17:30 平成29年度日本医師会生涯教育講座 「日常診療に役立つがん治療の最新講座」 [日本医師会生涯教育講座3単位認定]	
4日 (土)		
5日 (日)		
6日 (月)		
7日 (火)		
8日 (水)	18:00~19:30 第107回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会 (公開)	
9日 (木)	8:15~ 8:45 二の丸モーニングセミナー 「リスクマネジメントからのフィードバック」 国立病院機構熊本医療センター医療安全係長 堂園 千代子	
10日 (金)		
11日 (土)		
12日 (日)	8:00~12:30 第17回 熊本PEECコース (要申込)	
13日 (月)		
14日 (火)		
15日 (水)		
16日 (木)		19:00~20:45 第190回 三木会 (研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.0単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
17日 (金)		15:30~16:45 肝臓病教室 (研2) 「B型・C型肝炎の抗ウイルス治療」
18日 (土)	15:00~17:30 第6回 診断と治療 -最新の基礎公開講座- 「認知症の診断と治療」 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 座長 八代更生病院 理事長 宮本 憲司朗 先生 1. 症例呈示 国立病院機構熊本医療センター精神科部長 山下 建昭 2. 認知症の基礎知識 国立病院機構菊池病院 院長 木村 武実 先生 3. 災害と認知症 総合リハビリテーションセンター 城南病院 認知症診療顧問 高松 淳一 先生	
19日 (日)		
20日 (月)		19:00~20:30 第225回 月曜会 (内科症例検討会) (研2) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
21日 (火)	19:30~21:00 第53回 熊本摂食・嚥下リハビリテーション研究会 「頭頸部疾患の手術・嚥下障害の外科的治療について」 熊本大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科講師 鮫島 靖浩 先生	
22日 (水)	14:00~15:00 第56回 市民公開講座 「乳がんはこわくない」 国立病院機構熊本医療センター外科医長 水元 孝郎	
23日 (木)		
24日 (金)		
25日 (土)	14:00~16:00 第280回 熊本県滅菌消毒法講座 「消毒薬の使用上の留意点」	
26日 (日)		
27日 (月)		
28日 (火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会 (研1)
29日 (水)	18:30~20:00 第157回 救急症例検討会 「航空医療 熊本県ヘリ救急運行調整委員会症例検討部会」	
30日 (木)	8:15~ 8:45 二の丸モーニングセミナー 「薬剤科からのフィードバック」 国立病院機構熊本医療センター薬剤部長 中川 義浩 18:30~20:00 熊本県臨床細胞学会<細胞診月例会・症例検討会>	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会 (研2)

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501 (代) 内線2630 096-353-3515 (直通)